

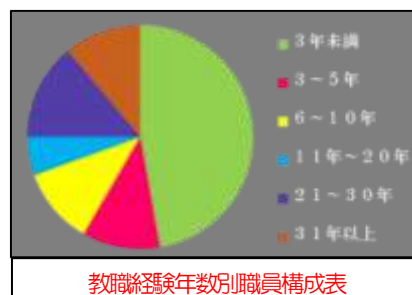
研究実践発表を通じた他校との交流を図る取組

～教職員一人一人の実践力の向上を目指して～

熊本県立荒尾支援学校

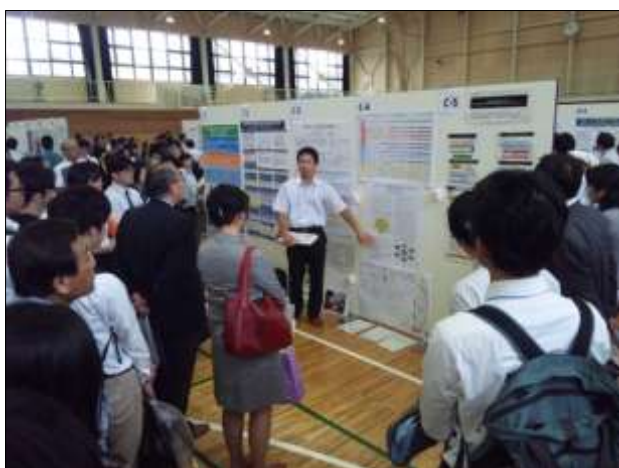
1 はじめに

本校は、県北唯一の知的障がいのある児童生徒を対象とする特別支援学校です。教職員の年齢構成は、20・30代が7割、経験年数では5年以下の教職員が6割以上を占めています。このような現状にあって、組織としての専門性の向上と個人の実践力の向上は、本校の大きな学校課題の一つとなっています。そこで本校では、平成23年度よりキャリア教育の視点で学校システムを見直し、研究を主体とした学校改革を進めてきました。さらに、本年度より「学校改革プロジェクト支援事業」に取り組み、学校改革をさらに前進させることを今後の目標としています。



これまでの実績の一つとして、研究を活性化し組織としての専門性の向上と個人の実践力を高める取組があります。本校では、3年前から日本特殊教育学会において研究発表を行ってきましたが、校内においてもそれぞれの教師が一人一事例の研究実践ポスターを作成して年2回のポスターセッションを行っています。職員同士の活発な意見交換を通して教職員一人一人の実践力の向上を図っています。

2 研究発表の様子



日本特殊教育学会での「ポスター発表」の様子

去る9月20日（土）～22日（月）、高知大学にて第52回日本特殊教育学会が開催されました。本校からは、自主シンポジウムを1本とポスター発表を2本、計3本発表しました。

シンポジウムは、「特別支援学校における新たな教育課程や学校システムの在り方の探求」と題して、熊本県立教育センター及び熊本大学附属特別支援学校と共に話題提供をいたしました。指定討論者には、熊本大学から菊地哲平准教授にお越し頂き、各地から参加された50名ほどの方々と共に、

本県の特別支援教育の取組について討論しました。また、ポスター発表では本校の研究の取組や個人の授業研究について、本校の中堅・若手教師がそれぞれ発表しました。当日は、教育関係者の他、研究者や経済産業省の方々からも多くのご意見を頂き、広い視野で研究の中味を検証することができました。

このように本校では、ベテラン、中堅、若手の教師が、積極的に全国的な研究発表の場で交流を深めることにより、教育に対する意識を高め、スタンダードな研究手法を学びながら、視野を広げています。

3 おわりに

1月24日(土)は、本校において「実践発表交流会」を開催しました。当日は、他校からの参加者の皆さんも自身の実践ポスターを持ち寄るとい、実践発表会の新たな取組にチャレンジしました。このように、今後は教師一人一人が自身の研究を通して交流を図る取組を、校内に留まらない取組として展開していきたいと考えています。